

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第 1 面)

産業廃棄物処理計画書			
平成 3 0 年 6 月 2 9 日			
愛 知 県 知 事 殿			
提出者			
住 所 碧南市天神町 2 丁目 8 番地			
氏 名 株式会社梶川建設			
代表取締役 梶川 光宏			
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)			
電話番号 0 5 6 6 - 4 8 - 3 6 8 8			
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。			
事 業 場 の 名 称		株式会社梶川建設	
事 業 場 の 所 在 地		碧南市天神町 2 丁目 8 番地	
計 画 期 間		平成 3 0 年 4 月 1 日 ～ 平成 3 1 年 3 月 3 1 日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項			
①事 業 の 種 類		0 6 総合工事業	
②事 業 の 規 模		元請完成工事高 1 9 7 , 6 2 3 万円	
③従 業 員 数		9 1	
④産業廃棄物の一連の処理の工程		排出工事現場 コンクリートガラ 自社又は収集運搬業者 (土木・建築) アスファルトガラ (委託) 廃プラスチック類 建設汚泥 木くず、混合物 中間処理業者 金属くず、紙くず (委託) 鋤さい、植物性残さ	

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
処理統括責任者 管理責任者	処理責任者 建設事業部次長	各工事現場	下請
管理部（管理・報告・調査等）			

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
1 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1	別紙1
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・再生利用促進計画書を必ず作成し、廃棄物の減量化及び再利用を積極的に進めている。 ・不用資材を現場に搬入しない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1	別紙1
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・廃材を少なくする工法を検討し、廃棄物減少に努める。 ・講習会等へ積極的に参加し、社内意識を高める。 ・マニフェスト伝票の管理を徹底する。		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類（アスファルト塊、コンクリート塊）、木くず、廃プラスチック類の分別を各現場において徹底している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 再利用可能な型枠材、木杭等は可能な限り再利用を図る。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
1 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	別紙2
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・可能な限り再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減に努めている。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙 2	別紙 2
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	・ 委託先処理業者へ定期的に訪問し、実地確認をする。 ・ 分別を徹底し、熱回収業者も利用していき減量化に努める。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1

産業廃棄物の搬出の抑制に関する事項

産業廃棄物発生量に関する現状及び目標（単位：t/年）			
産業廃棄物の種類	現 状	目 標	
		29年度	30年度
がれき類	4461.80	3300.0	
廃プラスチック類	74.50	54.0	
木くず	28.98	21.0	
混合物	30.10	22.0	
汚泥	7.06	5.0	
金属くず	17.05	12.0	
ガラス・陶磁器くず	10.00	7.0	
紙くず	0	0	

別紙 2

産業廃棄物の処理の委託に関する事項【前年度（平成29年度）実績】									
①現状	産業廃棄物の種類	がれき類	廃プラスチック類	木くず	混合物	汚泥	金属くず	ガラス・陶磁器くず	紙くず
	全処理委託量	4461.80 t	74.50 t	28.98 t	30.10 t	7.06 t	17.05 t	10.0 t	0 t
		優良認定処理業者への処理委託量		28.98 t					
		再生利用業者への処理委託量	74.50 t		30.10 t	7.06 t	17.05 t	10.0 t	
		認定熱回収業者への処理委託量							
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							

産業廃棄物の処理の委託に関する事項【前年度（平成30年度）目標】

産業廃棄物の種類	産廃委託量	がれき類	廃プラスチック類	木くず	混合物	汚泥	金属くず	ガラス・陶磁器くず	紙くず
②計画		3300.0 t	54.0 t	21.0 t	22.0 t	5.0 t	12.0 t	7.0 t	0 t
		優良認定処理業者への処理委託量		21.0 t					
		再生利用業者への処理委託量	54.0 t		22.0 t	5.0 t	12.0 t	7.0 t	0 t
		認定熱回収業者への処理委託量							
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							